

石垣島晩秋の採集記

入江 照夫

I). はじめに

蝶に魅せられてから7年、グループの中での一番の若輩であるが、勤務先での勤続は30年になる。30年勤続の特典に2泊3日の同伴旅行がある。飛行機に乗った事のない妻のためと、南西諸島の蝶の姿を見たくて、沖縄と石垣島へと計画をめぐらした。沖縄本島は1昨年、出張で出かけた時予定が早く終了したので3日間沖縄南部→本部半島→与那覇岳と5月初旬に歩いた事があるが、石垣島は初めてである。

残念なのは指定される期間が11月より3月中旬である。しかし敢えて晩秋の石垣島の蝶相も見たく、11月5日より1週間、沖縄→石垣島→沖縄を計画した。

II). 出発→沖縄南部

出発の5日前より風邪で寝込んでいた妻が前日になり、ようやく歩ける様になった。

11月5日の早朝は10度と大変肌寒く、下着を少なめにしたため、機内に入るまでガタガタふるえていた。沖縄は快晴で28度と大変暑く、夏物のスーツが汗ばみ肌にベタつく下着が真夏を思わす。

沖縄本島は大変な水不足で、トイレはドラム缶の水を手杓、食堂、喫茶店での水のお代りはグメ、食器は使い捨て容器、と節水につとめる状態である。

バスで6時間コースの南部戦跡めぐりをしたが、午後の6時間沖縄南部は、なんと蝶が少ないのかと驚く。目撃した蝶は、キチョウ、モンシロチョウ、テングチョウ、アカタテハ、ルリタテハ、ヤマトシジミ、の6種だけで、やはり内地同様に晩秋だなと感じると共に明日からの石垣島での採集もあまり期待出来ないなと妻と話し、観光を主体にせねばと半ばあきらめた。

III). 第二日 石垣島 於茂登

朝の便で石垣へ飛んだ。

眼下の珊瑚礁が美しい。“石垣は晴 29度”のアナウンス。思いは速くも川平へ、於茂登へとかけめぐる。空港からホテルへ急ぎ、風邪の妻をホテルに残して、急ぎ車で於茂登へと向かう。途中空港近くでイヌビユを見つけたので調べたがハマヤマトシジミはいなくてヤマトシジミばかりであった。

しかし、近くの亀甲墓のそばで、メスアカムラサキ、

ウスイロコノマチョウ、ウラベニヒョウモン等が採れ幸先よいスタートである。

砂糖キビ畑の中を走ること20分、於茂登岳の登山口へとついた。冷房の車から出ると大変暑く、雲が多いが日ざしは強く、汗を拭きながら歩いているとハブの死骸に出会う。一瞬たじろんだが、ハブの恐怖よりも蝶への想いが強く山道に歩を速める。

約20分、NHKのアンテナ工事中の於茂登岳中腹、名蔵湾が見渡せる三叉路まで来た頃より風が強く、ツマベニチョウ、カラスアゲハ、クロアゲハ等の大型の蝶が飛ぶと言うよりも、風に流される様に眼の前を次々と横切って行く。

名蔵湾の方へと山道を下る道筋、沖縄で感じた危惧は嘘のように蝶が多い。

貝殻色をあたり一面に振りまくルリウラナミシジミ、テリトリーを守るために追尾を繰り返しては又元の場所へと戻るコウトウシロシタセセリ。

交尾をしたまゝ飛翔をするメスアカムラサキ。

求愛に余念なく人の気はいも知らぬメスアカムラサキ、ネットするのが嫌になる程のスジグロカバマダラ、リュウキュウアサギマダラ、等々約3時間、夢中であつたが空の暗さに人恋しく、山を下りる事にする。

帰りのタクシーの中で運転手が石垣市内は1時間ばかり雨であつたと言う。初日は幸運であつた。

21種類、約150頭の収穫であつた。

IV). 第三日 川平(カピラ)

前線による夜来の雨。

冷房こそ入れなかったが、窓を全部開け寝苦しいまゝ眠っていたが、肌寒く目が醒めると雨と風である。網戸越しに雨が枕元まで入って来ている。

夜が明けても雨、風も止まず、採集は断念せざるを得ない。昨日よりも10度低いと言う。ランニングシャツだけでは肌寒い。

せめて観光でもと西表島、竹富島への船便を電話すれば風が治まるまで欠航との事、ついていない。

観光が駄目なら採れなくて元々と、風邪も大部良くなった妻を伴い車で川平湾へと向った。車窓から見る海は白く波立ち、道路添いの砂糖キビが大きくざわめいている。

川平公園まで来た時、風はあったが雨は小降りに治まった。この分なら大丈夫と車を降りる。

川平湾の美しいこと。ガイドブック以上の水の青さ、砂浜の白さである。しばし自然美の造形に心休まる思いで白浜を歩く。それも一瞬、白い砂の上をアオタテハモドキが風に流されて眼前を翔ぶ、あたりに誰も居ないのを幸と、白い砂浜に靴跡荒々しく蝶を追う。風が強く見失う、残念。

蝶を追って草地、木立ちの中へ。海岸添いの風の当らぬ草地に出た時、アオタテハモドキ、ウラナミシロチョウ、スジグロカバマダラ、メスアカムラサキ等が多く飛ぶ所へと出会う。濡れたネットに次々と入ってくる。雨は小降りであるが蝶は多い。

川平湾のヤブ蚊には閉口した。濡れた草地を走る顔に、手に黒々と止まって来る。

スジグロカバマダラを採っていた妻が、顔に蚊を止まらせながら、「これ、珍しいもの？」と指先に出した蝶は何と昨日から探せど目撃すら出来なかったヤエヤマイチモンジで、しかも雌の完品である。「これだから素人はこわい」と蝶仲間の声が聞こえる様だ。

海岸から山手への道を小雨の中に歩き、走る。水牛が1メートルはある角を揺らしながら、こちらを見る、あまり良い気持はしない。その水牛のそばで、アオタテハモドキが2ツ3ツ飛ぶが近づけない。木立ちの上をベニモンアゲハがゆるやかに飛ぶ。

暗い空に鮮紅色をひるがえて行交うツマベニチョウのラブコール。パイン畑は取り入れ前の甘い香り。人気のない山道で三角缶が半分重くなって来る。

川平湾の白砂が見えるパイン畑でアオタテハモドキを追っている時、雨足が激しくなりパインの実が、葉が濡れて来る。全く採集は不能となる。無情の雨だ。木立ちの中へと雨やどり。しばし止みそうで無い。

後髪を引かれる思いで石垣市内へと引きあげる。帰りは路線バスが丁度来合せ、少し方向違いの市内行きであったが雨の中の島内半周のドライブとなる。せわしく動くワイパーの中だけで見える川平湾の青い海、白い砂が印象的に過ぎ去って行く。

バスの中での30分余り、寒くて仕方が無かった。3時間程の採集であったが20種類、約200頭の収獲。

V). 第四日 於茂登岳

前線の停滞でまだ雨が降っている。ホテルの人の話では、平年より10度程低いそうである。昨日の雨に濡れたせいか身体が熱っぽく、口の周りに熱の華が出来ている。しかし時間が惜しい。

午後5時の便で沖縄へ帰る予定なので、3時までしか

石垣島に居られない。まだ採りたい蝶が残っている。雨の中を今一度、於茂登岳へと車を走らせる。

妻の風邪が完全にこちらに回った様である。頭がふらついて視点が定まらない。先を歩く妻は喜々として慣れぬ手つきで、タイワンキチョウ、リュウキュウヒメジャノメ等を三角缶に入れている。

ネットを振る気のないまま後から歩いているうちに雨が止み、黒い雲間に白さが見えて来た。ツマベニチョウの朱色に採集意欲をかり立てられる。

何処からともなく、コウトウシロシロシタセセリが飛んで来ては追尾を繰り返し、名も知らぬ木の葉に止まるのを採ると、5秒もたたぬ間に全く同じ位置に止まる。採ると又止まる。面白い様に採れる。ゆっくり新鮮な個体を選んで採る事が出来る。

タテハモドキの秋型の新鮮なもの、後翅の赤紋が大きいクロアゲハ、全面真黒なカラスアゲハ、等々々。

昼すぎ風が出て来た。雨も降り出して来た。期待していた、コノハチョウ、ヤエヤマムラサキ、イワカワシジミの姿を見ずに下山するのかと残念至極。

於茂登部落まで下りて来た時、風があまり強いので呼んでおいたタクシーの時間まで、道路より少し離れた林の中へ待機する事にした。林の中の流れのない小川を歩き、ふと前方を見ると何と素晴らしい眺めであろう。薄暗い林の中に、スジグロカバマダラ、リュウキュウアサギマダラ、キチョウ等が何十頭、いや何百頭の蝶が風を避けて、ひしめき合う様に空中に漂っているではないか。あまりの幽玄な光景に声も出ず、ただ恐怖のみを感じて足が動かなかった。

我に返ったのはコノハチョウである。眼の前の木の根元に止まっている。飛んでいるコノハチョウは沖縄で採った事はあるが、止まっているのを見るのは初めてであり、下向きに止まり、しかも特異な木の葉模様は全く驚嘆に値する。外敵から身を守るためのこの様な素晴らしい疑態術をいつ身につけたのであろうか。ネットすると前翅の先端が欠けているが新鮮である。

近くでスミナガシも採った。後翅が半分程欠けているが個体の大きいのは、これ又驚きであった。

時の経つのを忘れていた時、車の音がしたので急いで道路へ出たがタクシーはそのまゝ走り去り、於茂登岳の方へと消えてしまう。約束していた場所は、はるか山の上である。待つ時間が気になる。帰りの飛行機は待つて呉れない。近くの農家へ走り、車を出して頂いてタクシーに連絡してもらい、やっとの思いでホテルへの帰路についた。車の中で運転手が、「いくらクラクションを鳴らしても戻って来ないので道に迷ったのかと心配しましたよ。ハブも多いし、冬眠前のハブ

は特に危険ですからね』と言われた時、ハブが居た事を思い出した。初日にハブの死骸を見ているにもかかわらず、3日間道のない草むらを走り回っていたのである。幸にして無事であったが妻と顔を見合せて苦笑いする事であった。

何はともあれ、3日間の石垣島での採集は終わった。天候には全く恵まれなかったが、それなりの成果はあった。又来る機会を念じつつ石垣空港を後にする。

窓から見る雲海の上の夕陽が赤々と映え、石垣島の旅を一そう印象づけてくれた。

晩秋11月6日から8日までに採集した蝶の種類と、鮮度、個体数を記しておきたい。

鮮 度 ◎…新鮮 ○…小破 △…大破
個体数 +…稀 ++…普通 +++…多い

種 類	鮮度	個体数
アゲハチョウ科		
ベニモンアゲハ	○	++
アオスジアゲハ	○	++
ミカドアゲハ	△	+
ナガサキアゲハ	△	+
クロアゲハ	○	++
シロオビアゲハ	○	++
カラスアゲハ	○	++
シロチョウ科		
ツマベニチョウ	△	++
ナミエシロチョウ	○	+
モンシロチョウ	○	+
台湾キチョウ	◎	++
ウラナミシロチョウ	△	++
キチョウ	○	++
マダラチョウ科・テングチョウ科		
テングチョウ	○	+
アサギマダラ	○	+
リュウキュウアサギマダラ	◎	+++
カバマダラ	◎	+
スジグロカバマダラ	◎	+++
タテハチョウ科		
アカタテハ	◎	+
ルリタテハ	△	+
アオタテハモドキ	◎	+

タテハモドキ	◎	+
メスアカムラサキ	△	+
リュウキュウムラサキ	△	+
コノハチョウ	△	+
ツマグロヒョウモン	○	+
ウラベニヒョウモン	△	+
イシガケチョウ	△	++
スミナガシ	△	+
ヤエヤマイチモンジ	◎	+
リュウキュウミスジ	○	++

シジミチョウ科		
ヤマトシジミ	○	++
台湾ツバメシジミ	○	+
ヤクシマルリシジミ	○	+
台湾クロボシシジミ	○	+++
ルリウラナシジミ	◎	+++
ウラナシシジミ	△	++
アマミウラナシシジミ	△	+

ジャノメチョウ科		
ウスイロコノマチョウ	○	++
マサキウラナミジャノメ	○	+
ヤエヤマウラナミジャノメ	○	+
リュウキュウヒメジャノメ	◎	++

セセリチョウ科		
オキナワヒロウドセセリ	△	++
コウトウシロシタセセリ	◎	+++
クロセセリ	◎	+
トガリチャバネセセリ	○	+
ユウレイセセリ	○	+
イチモンジセセリ	△	+
ヒメイチモンジセセリ	△	+

アゲハチョウ科：7種 シロチョウ科：6種
マダラチョウ科：5種 タテハチョウ科：13種
ジャノメチョウ科：5種 シジミチョウ科：7種
セセリチョウ科：7種
合計 50種類

TERUO IRIE 〒678 相生市